

平成28年度実施事業

協働事業報告会

◆開催日 平成29年5月20日（土）

◆会場 ひらつか市民活動センター

目次

- スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 協働事業報告書
 - ①平塚市立小中学校運動場、体育館個人利用促進事業・・・・・・P2
 - ②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業・・・・・・P12
 - ③不登校・ひきこもり改善・自立支援事業・・・・・・P22

平成28年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成29年5月20日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
14:00	協働事業報告会開会 <ul style="list-style-type: none">・協働事業審査会委員長あいさつ・協働事業審査会委員紹介・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
14:10	1. 平成28年度実施事業の報告（プレゼンテーション） <p>※各事業ごとに報告発表（8分：団体4分、行政4分） 審査員からの助言等（5分）</p> <p>◆市民提案型協働事業</p> <ul style="list-style-type: none">①平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業③不登校・ひきこもり改善・自立支援事業 2. 委員長総評
15:15	閉会予定

平成 28 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

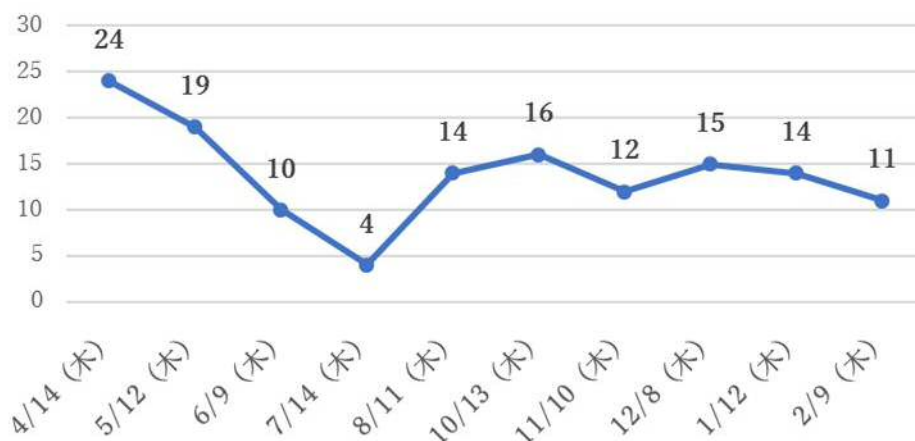
団 体 名	東海大学地域スポーツクラブ	
団体代表者	萩 裕美子	印
事業担当課名	スポーツ課	
事業担当課長	石塚 誠一郎	印

平成 28 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

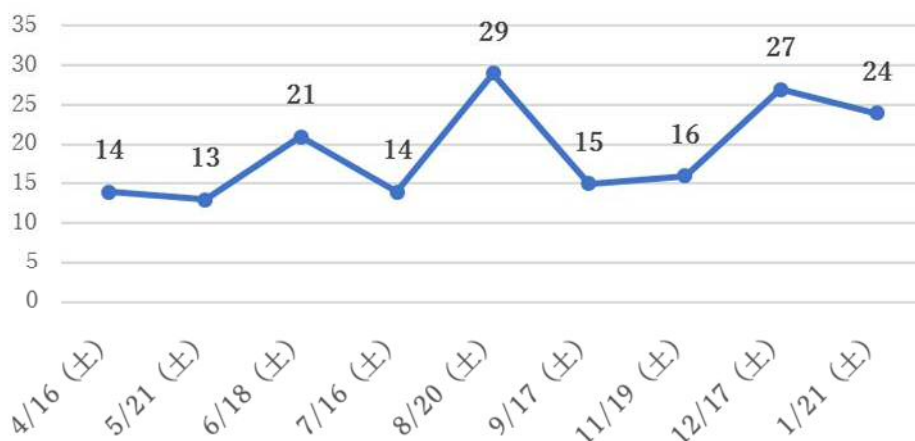
記

事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業														
事業開始年度	平成 26 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業												
事業費	212,000 円	内 訳	市の支出 180,000 円 ----- 団体の支出等 32,000 円												
事業の概要	市民の皆様が気軽にスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、小中学校の運動場、体育館を利用して、ひとりでも利用できる個人利用の日を設けています。東海大学地域スポーツクラブの管理者が、初心者に対する助言・けがの応急処置・用具の管理等を行います。														
具体的な実施内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>日時</th> <th>種目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中原中学校</td> <td>第 2 木曜日 19:00~21:00</td> <td>バスケットボール バドミントン</td> </tr> <tr> <td>みずほ小学校</td> <td>第 3 土曜日 13:00~16:00</td> <td>卓球、バドミントン ショートテニスなど</td> </tr> <tr> <td>金目中学校</td> <td>第 4 月曜日 19:00~21:00</td> <td>バスケットボール バドミントン</td> </tr> </tbody> </table>			学校名	日時	種目	中原中学校	第 2 木曜日 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン	みずほ小学校	第 3 土曜日 13:00~16:00	卓球、バドミントン ショートテニスなど	金目中学校	第 4 月曜日 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン
学校名	日時	種目													
中原中学校	第 2 木曜日 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン													
みずほ小学校	第 3 土曜日 13:00~16:00	卓球、バドミントン ショートテニスなど													
金目中学校	第 4 月曜日 19:00~21:00	バスケットボール バドミントン													
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。															

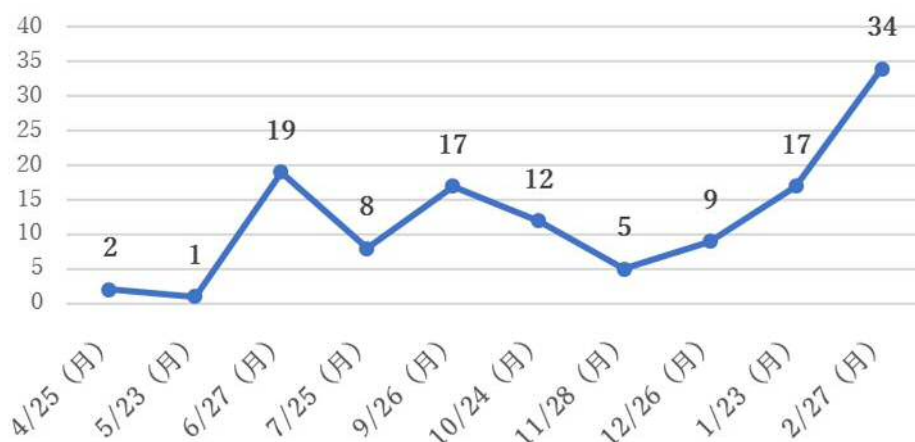
中原中 参加人数



みずほ小 参加人数



金目中 参加人数



	みずほ小	中原中	金目中	全校
合計	173	139	124	436
平均	19.2	13.9	12.4	15
実施回数	9	10	10	29

(2/11 のパラスポーツ体験会を除く)

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成28年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	180,000	180,000	0	
	団体の支出	32,000	35,023	+3,023	(パラスポーツ体験会実施のため)
	事業収入				
	収入合計	A 212,000	B 215,023	B-A +3,023	
② 支 出	謝金 (有償ボランティア)	153,600 (153,600)	156,000 (156,000)	+2,400	1回 2400円×のべ65人 領収書番号：1～65 (パラスポーツ体験会実施のため)
	交通費	32,000 (0)	32,500 (0)	+500	1回 500円×のべ65人 公共交通機関につき領収書なし (パラスポーツ体験会実施のため)
	プログラム諸費	16,000 (16,000)	18,916 (16,393)	+2,916	バドミントンラケットカバー、シャトル、USB等 領収書番号：66～69
	事務費	5,400 (5,400)	2,607 (2,607)	-2,793	ファイル、領収書、封筒等 領収書番号：70～72
	保険料	5,000 (5,000)	5,000 (5,000)	0	領収書番号：73
		()	()		
		()	()		
	支出合計	C 212,000 (180,000)	D 215,023 (180,000)	D-C +3,023	
③	収支決算額	B 215,023 円 - D 215,023 円 = 0 円			【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	東海大学地域スポーツクラブ	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人開放利用促進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民の方々の運動機会の創造のため、共に活動することができたと考える。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	各々の得意分野を活かし、活動できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	4	実際の開放や電子メール、打ち合わせを通し、十分に協議したと考える。 特に来年度以降の在り方について、協議を重ねた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	実際の開放時の運営方法など、多くを任せていただき、学生にとっても大きな勉強の場となった。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	広報業務を担っていただいたことにより、多くの参加者が集まった。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」 できましたか。	5	地域住民のスポーツへの参加意欲の向上という目的を共有し、気軽にスポーツが楽しめる環境づくりを行うことができた。
②事業での「役割分担」 は適正でしたか。	5	団体が主体的に動いてくれたため、広報や相談に注力できた。
③「十分に協議」を行 いましたか。 (双方の特性の理解に 努めましたか。)	5	開放の現場や電子メール、打合せを通して、十分に協議できた。特に、協働事業終了後の個人開放のあり方について協議を重ねた。
④「対等な立場」を尊重 して事業を実施でき ましたか。	5	団体の主体性を発揮できるように努めた。
⑤それぞれ単独で実施 するよりも「相互効果 や波及効果」が得られ ましたか。	5	団体の特性である専門性や若さを活かして活発な事業展開ができた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	3	天候や学校行事等のため、開放回数は減ったものの、参加者平均は15人と昨年度の13.6人よりも増加したことから概ね達成できたと考えられる。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	3	費用対効果は測りにくいですが、アンケート調査結果によると、参加理由として、「体を動かしたい」という回答が最も多かったことから、スポーツ施設が減少する中、体を動かしたいというニーズに対してスポーツをする場の提供ができたと考えられる。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。(受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など アンケート調査の結果によると、92%の参加者が満足していると答えている。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	団体に属さない個人が学校開放に気軽に参加できた。また、競技者同士のコミュニティ形成の役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場となった。
団体のメリット	学業の成果を実践する場であり、さらに大学の地域貢献として、市民が東海大学のことを知り、身近に感じてもらえる機会となった。
市のメリット	市民のスポーツをする意欲につながり、ひとりでも気軽にスポーツをする機会を提供できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

アンケート調査によると、改善してほしいことに「実施回数」が最も多く挙げられていたことから開放校数を絞り、月2回開催する。

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

行政が単独で実施

その他 ()

休止または終了

団体が単独で実施

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

大学交流のうちスポーツ課の事業として実施する。
開放校数を減らし、同校で月2回開催する。
パラスポーツ体験を行うなど、内容の向上を図る。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	東海大学地域スポーツクラブ	担当課名	スポーツ課
事 業 名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的共有」は十分になされており、団体が主体的に動き、行政に頼ることなく運営ができた。また、「役割分担」が明確化され、「対等な立場」でお互いの長所・短所を補完できていると思われる。

「相互評価や波及効果」は、夜間や休日といった行政サービスが届きにくい時間帯に市民サービスが行なえたことや学生による市民目線に近い運営ができたこと、体育学部のノウハウを活かした指導ができたことが考えられる。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、開放回数は減っているが、参加者平均は15.2人と昨年度よりも増加したことから概ね達成できたと考えられる。

「費用対効果」については、スポーツ施設が減少する中、体を動かしたいというニーズに対してスポーツをする場の提供ができたと考えられる。

「受益者サービス」については、アンケート調査の結果によると、92%の参加者が満足していると答えている。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

市民のメリットは、団体に属さない個人が学校開放に気軽に参加できた。また、競技者同士のコミュニティ形成の役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場となった。

団体のメリットは、学業の成果を実践する場であり、さらに大学の地域貢献として、市民が東海大学のことを知り、身近に感じてもらえる機会となった。

市のメリットは、市民のスポーツをする意欲につながった。また、専門性の高いスポーツ機会を提供できた。

(4) その他、課題やその改善方法など

アンケート調査によると、改善してほしいことに「実施回数」が最も多く挙げられていたことから開放校数を増やしていくことが今後の課題である。

(5) 今後の具体的な展開

■今後も双方で実施 (□提案型 ■提案型以外)

□休止または終了

□行政が単独で実施

□団体が単独で実施

□その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

大学交流事業として継続実施する。

開放校数を減らし、同校で月2回開催する。

パラスポーツ体験を行うなど、内容の向上を図る。

平成28年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長

団体名	認定 NPO 法人 湘南ふじさわシニアネット
団体代表者	小林信武 印
事業担当課名	スポーツ課
事業担当課長	石塚 誠一郎 印

平成28年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		
事業開始年度	平成26年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	895,600 円	内 訳	市の支出 785,000 円 ----- 団体の支出等 110,600 円
事業の概要	<p>平塚市の近年の調査では、市民がスポーツを始めるきっかけとなるものは、 1位) 身近に運動できる場所があること 3位) 仲間・家族からの誘いがある であった。この2つで 45%もの割合を占め、「運動施設」や「仲間と一緒に参加できるイベント」を知ることが、市民がスポーツに親しむための大きな要素であることが分かった。</p> <p>しかし現状、行政では、これらの情報はほとんど無いかバラバラに散在しており、市民からの問合せに対し団体などの連絡先を教える等にとどまっている。</p> <p>本事業は、上記の課題を解決するために、スポーツを希望する市民が「いつでも、どこでも、手軽に」ホームページから情報が得られることを目的に、市内のスポーツ施設に加え、各種スポーツ団体のイベント情報を総合的にリアルタイムに市民に提供できるポータルサイトの構築と運営を目指す事業である。</p> <p>このポータルサイトにより、スポーツに取り組む市民が増え、特に若い世代(20歳代～40歳代)のネットからの情報取得でスポーツ参加率が上がることが期待され、更に地域スポーツ団体もその活動が促進される等の相乗効果も期待できる。</p>		

具体的な
実施内容

実施年月日、実施
内容、参加者等
をご記入ください。

1. H27.4.1 ひらつかスポーツナビを公開、運用を開始した。
2. H28年度年間アクセス状況
年間訪問者 約 106,500人 (約 8,900人/月) 昨年度比 1.9倍
年間リピータ 約 56,700人 (約 4,700人/月) 同 1.8倍
年間ページビュー約 279,000 同 1.8倍
記事投稿 約 440件 (約 37件/月)。365日 24時間 連続運用 (停止時間 0)
モバイル参照率 (H29年間平均) 66.6% (+2.1%)
3. 事業継続の3年目として、以下の情報掲載の充実・新規機能追加を行った。
 - 1) スポーツ市民団体の情報整備と掲載 (随時公開、+9団体) 計 80団体
3年間計 147団体
 - 2) スポーツ施設情報 (1月公開) (公共施設 23、小中学校 51、公民館 5)
3年間計 79施設
 - 3) デジタル地図化 (高精度地形・高低表示可。スマホで携帯参照可)
ウォーキングマップ (37コース)、サイクリングマップ (5コース)
市内駅伝競走大会：区間コース図、動画 2、過去記録 (S30年～)
 - 4) コラム新設、整備：「平塚にゆかりのあるスポーツ選手」、「Rio-2016
オリパラ」、画像スライダー年約 30件掲載
 - 5) 簡易市民アンケート実施 (3月、31人対象)：サイトを知っている 52%、
サイトを使っている＝非常に満足・満足は 63%、普通 31%
4. 協賛
・今年度は追加 2 件の広告協賛をいただき、合計 8 件。
地域からのご支援ありがとうございました。

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

平成28年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	785,000	785,000	0	平塚市協働負担金
	団体の支出				
	事業収入	120,000	110,600	△9,400	バナー広告 (8件) 99,800円 (税込)、作業委託費 (2件) 10,800円 (税込)
	収入合計	A 905,000	B 895,600	B - A △9,400	
② 支 出	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、支出内容・単価・数量等)
	1. 機能拡充 開発	146,272 (106,272)	216,546 (216,546)	70,274	235.5H。ウォーキングマップ37個+サイクリングマップ5個の開発—予定工数超。新規市民団体の掲載8件、イベント検索機能拡充、他
	2. サイト維持、サポート	210,080 (190,080)	238,615 (227,815)	28,535	259.5H。定常保守・不具合改修。トップ画像スライダー更新。ユーザサポート (駆伝コース開発、駆伝メニュー開発【委託作業費10.8千円補充】)
	3. サイト基本部改善	133,440 (73,440)	109,882 (10,082)	-23,558	119.5H。コラム新設 (平塚のスポーツ人、リオのオリ・パラコラム等) Facebook 連携部開発。【広告バナー費99.8千円補充】
	4. 事務用品ほか	17,472 (17,472)	2,500 (2,500)	-14,972	用紙、インク代。
	5. 定例打合せ	79,056 (79,056)	90,112 (90,112)	11,056	98.0H。定例会8回 x2Hx6人、臨時会1回 x2H
	6. 旅費・交通費	124,280 (124,280)	22,666 (22,666)	-101,614	定例会8回、臨時会1回。 SFSにて開催&出席者減のため、交通費減。
	7. 賃貸	34,560 (34,560)	34,560 (34,560)	0	レンタルサーバー利用料 ・ドメイン代+サーバー2台 (プレミアム+スタンダード)
	8. ソフト費	43,200 (43,200)	32,972 (32,972)	-10,228	外付け付属ソフトの購入6本・更新2本
	9. 管理費	116,640 (116,640)	147,747 (147,747)	31,107	96.0H。エキスパート支援、プロジェクト管理—安定運用実績。 消費税 59,474円 (1,2,3,5,9項)
支出合計	C 905,000 (785,000)	D 895,600 (785,000)	D - C △9,400		
③	収支決算額 B 895,600 円 - D 895,600 円 = _____ 円				【備考】 平均単価 919.52円/H

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	認定 NPO 法人湘南ふじさわシニアネット (SFS)	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築と運営	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 十分に目的意識は維持できた。 市民参画のサイトにするための相互に活発な提案がなされた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 市は、協会等の団体や地域団体の情報収集と提供に尽力された。 団体への折衝窓口としてよく機能してくれた。 我々はサイト構築や、サイトの運営に集中できた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	<ul style="list-style-type: none"> 今年は年8回の定例会に減らしたが、メール等を活用し、意志疎通はほぼ円滑にできた。 互いに、そのスキル・役割を認識し、無理なスケジュールや、作業にならなかった。 市は SFS の提案に対し、前向きに検討してくれた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 全く対等に1つのプロジェクトグループとして活動できた。 市の謙虚な対応姿勢がとても素晴らしく、我々の仕事は大変スムーズに進められた。意見も率直に言えた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じポータルは安定運用ができています。市側の運営への参画・協力が十分得られている成果と考える。 協働打合せの中から市側の運営負担を増やさないシステム設計と仕組みも実現できた。 市の健康課や障害福祉課など、市の関連組織にも本ポータルの利用が広がってきた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→ B : 「相互」評価シート →

C : 審査会の意見

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・市民及び市民団体に周知され、活用されるサイト構築ができた。 ・アクセス数に山谷はあるものの、右肩上がりの伸びがきている。 ・市の地域団体（湘南 NPO サポセン）との連携活動（団体勧誘、駅伝映像・速報掲載等）もできた。
②事業で「経費に見合うサービスの提供（費用対効果）」が得られましたか。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画、予算にあまり固執せず、ポータルサイトに必要な機能であれば、グループを挙げ開発・実現努力をした。 ・結果、年間を通じグループ各メンバーが納得できる仕事や、チャレンジがほぼ実現できたと感じている。 ・ウォーキングマップ、写真アルバム、Facebook 連携など新ソフトを駆使し、要望に丁寧に応えられたと考える。
③事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	<p>※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年初の市内駅伝競走大会の速報掲載には、かなり高いアクセスも得られた。 ・年間通じクレームもなく来ているので、まあまあ出来映えかと感じるが、年1度は市民からのアンケート等でのキチンとした反応を知りたい。客観評価データが少ない。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	スポーツイベントがかなり頻繁に、まとめて表示・掲載される。いつ、どこで、どんなスポーツイベントがあるか、分かるようになった。
団体のメリット	サイト構築に際し、新しい技術的試みが年間を通じ行うことができた。
市のメリット	市民団体発信の有益なスポーツ情報を提供でき、市の新しい市民サービスになった。市民がスポーツに近づくサイトができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

<p>更なるアクセス数アップのための改善 初心者のためのニュースポーツ等の紹介等が更に必要：これにより運動をしない市民の気持ちの扉が開ければいい。 市民アンケート等により直接評価が欲しい。</p>

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他（ 新たな協働団体を加えて、継続して実施予定 ）

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・自主財源としてバナー広告の協力を願う。財政基盤の更なる充実。
- ・神奈川県や近隣自治体が持つスポーツイベントとの連携を図り、地域への重層的なスポーツ情報サービスの提供へ発展させたい。（垂流通）
- ・また Facebook など幅広い利用者のいる社会的 SNS との連携を持ち、地域スポーツへの関心を高める仕組みを作ることへのチャレンジ。（水平流通）

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	スポーツ課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	協働3年目となり、相互に「市民参加型のサイト構築」という共通の目的意識を持って、提案や作業を実施することができた。課題が生じた場合も、目的に帰着するような方向で議論を進めることができた。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	5	協働団体は、専門的なノウハウを活かして保守管理、サイトの新機能の提案・開発を行い、市はスポーツ関係団体とのつながりや信頼性、組織力などを活かし、新規団体の募集や広報を行うなど、適正な役割分担が行えた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	4	年8回の定例会、ウォーキングマップの作成など必要に応じて打ち合わせを行った。またメールのやり取りでは、グループメール活用し、情報の共有を図った。ただし、メールだと相談に時間がかかる点と真意が伝わりにくい点が反省点であった。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	事業を実施する際には、双方で協議した上で進めており、役割分担を踏まえた上で、行政と市民団体が対等な立場を尊重しながら事業を実施できた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	行政と市民団体が対等な立場を尊重し、役割分担を踏まえた上で事業を実施できたことは、互いのメリットを効果的に発揮し、市民参加型サイトとして特徴ある取り組みができた。

(2) 事業の「内容」

評価項目	評価点 (5段階)	補足 (評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など)
①事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5	市民に利用してもらうという観点では、新たなコンテンツの新設やスライダー記事の活用など、新たな取り組みにチャレンジし、昨年度と比較して大幅にアクセス数が増加し、目的を達成できた。 その反面、新規に登録を行う団体が伸び悩んだことが、課題であった。
②事業で「経費に見合うサービスの提供(費用対効果)」が得られましたか。	5	当初計画していた予算から減額となったが、取り組む内容を精査し、優先順位をつけ取り組んだ結果、希望していた開発を展開することができた。また、開発作業について、相互で協力して作業にあたることができた。経費相応になっているが、協働団体の高い対応力には、費用以上の効果が実感できる。
③事業に対する「受益者(市民)の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4	※受益者からの評価の方法と内容、または、評価できない場合はその理由など スポーツイベントでランダムにアンケートを行ったところ、5割以上の方にサイトを認識していただいていた。当サイトの満足度も6割を超えており、一定の評価を得たと思われる。

(3) 実施したメリット

市民のメリット	市内の多くのスポーツ情報(イベント、団体、施設等)をワンストップで閲覧することが出来る様になり、利便性が向上した。
団体のメリット	市と協働でサイトを構築することにより、市のスポーツ団体との繋がりや信頼性、組織力を活用したサイトづくりが出来た。
市のメリット	協働事業により、市民目線でのサイトを構築できた。 市の事業を円滑かつ効果的に市民の方々にアピールすることができた。

(4) その他、課題やその改善方法など

新規にバナー広告や有償代行での記事作成に取り組み、自主的財源をある程度確保できたが、今後も継続した課題である。
新規登録団体が伸び悩んでいる点と登録団体でも記事投稿されない団体がいる点は今後の課題である。

(5) 今後の具体的な展開

- 今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)
 休止または終了
 行政が単独で実施
 団体が単独で実施
 その他 (新たな協働団体を加えて、継続して実施)

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

3年間の協働期間においてサイトの構築を概ね完了することができたため、今後はサイトの運用に主眼をおいて展開していきたい。そのため、スポーツ分野のすそ野を広げる意味合いからも、協働団体に「平塚市まちづくり財団」を加え事業を進めることとした。

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団体名	認定 NPO 法人湘南ふじさわ シニアネット	担当課名	スポーツ課
事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・双方の立場を理解し、忌憚なく意見交換し事業を進めることができたことは、お互いに最も評価できた点であった。
- ・協働事業の活動は互いに良い評価であった。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

- ・スポーツに関する市民からの問い合わせに、ポータルサイトがあるので、サイトに掲載している内容の参照を伝えれば良くなった。詳細を伝える手間、時間が無くなった。
- ・団体への問合せも、検索機能が非常に有効である。
- ・特に土日のスポーツイベントは、周知と連絡が容易で有効性が高い。
- ・利用者向けのアンケートの方法に苦慮する部分があったが、統計上、年間200日以上アクセスユーザーが2000名弱いることから、サイトに常設したアンケート機能をつけることも検討していきたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

- ・市のHPは様々な情報が掲載されている総合サイトであるので、スポーツ情報の検索までに手間がかかる場合がある。その点、当サイトは市のスポーツ情報についても、入手しやすい環境を整えている。具体的には、スポーツ用具の貸出（種類、器具の画像など）制度や公共施設予約システム、各種市主催の大会情報など、トップページのバナー等から1クリックでアクセスすることができる。
- ・スポーツ開催の中止など、市民への周知・連絡の即時的アナウンスに非常に有効である。
- ・団体としては、様々な機能の開発についてチャレンジすることができた。

（４）その他、課題やその改善方法など

- ・広報・アピール活動が更に必要
行政内の横連携（健康、高齢福祉、障がい、青少年課等）による相乗効果へ。
例）ウォーキングマップ等の効果（健康課など）
市民や地区活動員へ、市の広報番組CATVなどを通じての継続的広報。
スライダー画像での広報活用（教室、講座開催など）
- ・効果の更なる把握
効果測定は難しいが、ポータル上で簡易アンケート機能の常設も今後検討する。
団体へのアンケート、ヒアリングの実施（入会者の入会動機や情報入手手段の把握）
- ・本格的なスマホ対応へサイト及び仕組みの改造

（５）今後の具体的な展開

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 今後も双方で実施（ <input type="checkbox"/> 提案型 <input type="checkbox"/> 提案型以外） | <input type="checkbox"/> 休止または終了 |
| <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 | <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（新たな協働団体を加えて、継続して実施） | |

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

広告・協賛バナーの更なる拡大を図り、安定した財政基盤を作る。

平成 28 年度実施 協働事業報告書

(宛先)
平塚市長 殿

団 体 名	特定非営利活動法人ぜんしん		
団体代表者	柳川 涼司		印
事業担当課名	健康・こども部	青少年課	
事業担当課長	篠崎 光徳		印

平成 28 年度に実施しました協働事業について、下記のとおり事業報告いたします。

記

事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		
事業開始年度	平成 28 年～	提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 行政提案型協働事業
事業費	122,695 円	内 訳	市の支出 120,000 円 ----- 団体の支出等 2,695 円
事業の概要	<p>本事業では、平塚市と NPO 法人ぜんしんが協力し、ゲームやネット依存などにより不登校・ひきこもりに陥り、悩んでいる当事者親子が集い、相談等が出来るフリースペースを平塚市青少年相談室に開設する。</p> <p>フリースペースにおいて子どもは、NPO 法人の元当事者や他の参加者とゲーム等の遊びを交えて、外出の機会を得る。</p> <p>また、保護者は、市の相談員及び NPO 法人の元当事者等が相談に応じ、挫折や回復の体験談の提供や支援機関等の情報提供を実施することで、自立に向かう為の支援を行うものとする。</p>		
具体的な実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日時：[第 1 回目] 平成 28 年 5 月 21 日(土)、10 時から 17 時 [第 2 回目] 平成 28 年 11 月 19 日(土)、9 時半から 18 時 50 分 ・実施場所：平塚市青少年相談室(平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階) ・参加者数：[第 1 回目] 7 名 [第 2 回目] 16 名 ・活動内容：青少年相談室管轄の 3 部屋を利用し、市の相談員と団体スタッフが、各参加者に対して、個別相談や意見交換等に応じた。 <p>※詳細については、別紙参照</p>		
実施年月日、実施内容、参加者等をご記入ください。			

※事業費の詳細については、別紙「決算報告書」を添付。

以 上

第 1 回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」実施報告書

- 【日 時】** 平成 28 年 5 月 21 日(土) 10 時から 17 時
【場 所】 平塚市青少年相談室 (平塚市見附町 15 番 1 号 市民センター2 階)
【出席者】 青少年相談室：4 名 / NPO 法人ぜんしん：5 名(ボランティアを含む)
【参加者】 7 名
【主な活動内容】 青少年相談室管轄の 3 部屋を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a) ぜんしんの定例活動に数度参加している 29 歳男性は、親のことで相談したいとのことで市の相談員による相談を受けた。その結果、「相談員がしっかり話を聞いてくれて良かった。一時的に楽になれた」と述べ、また、他のぜんしんに参加している参加者に対して、いき過ぎた発言があったことを謝り、一緒に帰るなど、良い変化が見られた。
- b) 孫の相談で様々な公共機関に通ったものの、どこにも馴染めずに孤立していた夫妻は、ぜんしんの元当事者相談員に相談を受けた結果、元当事者ゆえの感情の理解や具体的な助言に夫妻は打ち解け、今までにない和やかな態度を見せた。
- c) 子どもの相談で訪れた母親は、市の相談員とぜんしんの相談員の両方の相談を受け、様々な助言を得て、別の関係機関への興味を示した。家庭では吐露できない本音を語れたことで、感情的な整理がついたようだった。

2) ぜんしんの元当事者スタッフや当事者の子を持つ親による意見交換

- a) 参加者のうち 4 名とぜんしんスタッフとで円卓を囲み、雑談や意見交換を行った。ぜんしんの定例活動にも参加している 25 歳の男性は、コミュニケーションの悩みとそれによる職場での困難な体験などをはじめて語った。また、折り紙をして楽しむ際、手本を頼りにせず、難しい作品を作り上げるなど、新たな一面を見せてくれた。
- b) 29 歳男性や親子で参加された当事者らも、上述の悩みの件に関して自身の体験を交えながらアドバイスを送るなど、相互に助け合う形が自然とできた。また、ぜんしんの定例活動のノウハウを用いた会話手法により、参加者全員が発言することができた。

【振り返りまとめ】

- 1) 普段の相談室の業務は基本的に受身であり、あまり具体的な部分は立ち入ることが難しいが、具体性のある当事者らの意見は理解しやすく、受け入れやすい様子だった。公的な支援とは別に民間の当事者団体の力もまた重要であり、参加者にとっては一挙両得な貴重な場とすることができた。どの参加者にも、おおむね良い効果が見られた。
- 2) 次回の同事業開催は 11 月を予定しているが、第 1 回目の事業実施内容を踏まえ、以下の問題点を改善し、次回の開催へ繋げていく。今回の参加者の希望などもすり合わせると、将来的には 3 ヶ月に一度程度は開催できるようにしていきたい。

【問 題 点】

- 1) 会場への階段が暗い (開催時間よりも大幅に早く到着した参加者がいた[想定外])。
2) 「個別相談」を受けた親御さんが意見交換スペースに入って来なかった。
3) ノートパソコンやゲームを用意したが、利用する者がいなかった。

【アンケート結果】

※当日に参加者が記載したアンケートの結果は「別紙」を参照

以上

第1回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」アンケート集計結果(数値編)

参加人数	7人
アンケート枚数	6枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット		0%
告知パンフレット	2	33%
広報ひらつか	2	33%
知り合いからの紹介	2	33%
JR平塚駅掲示ポスター		0%
行政機関の紹介、その他		0%
合計	6	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	3	27%
元当事者(親)による相談	2	18%
元当事者(子)による相談	2	18%
カードゲーム等のゲームコーナー		0%
意見交換コーナー	4	36%
ミニ・パソコン講座		0%
合計	11	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	3	60%
3ヶ月に一度	2	40%
半年に一度		0%
1年に一度		0%
その他		0%
合計	5	

第1回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」アンケート集計結果(コメント編)

※誤字脱字の修正、不明な文字の補完をしています

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

1	広報ひらつか見た？の声かけから。
3	ぜんしんのイベントで。

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	母親の私の心が「来て良かった」とほっとできました。泣いちゃいました。
2	当事者の方に、参考になりました。
4	もう少し目的が感じられた方が良いかもしれないです。
6	まったりお話できた。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	茅ヶ崎、新泉こころのクリニックに行ってみようかと思えます。息子の「聴こえるつらさ」が少しでもとらせてもらえたらと……。
2	月1回程開催していただきたい。

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

--	--

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

2	今後、月三回程度開催して下さい。
3	保護者向け講演会。
5	仮装パーティー。

第 2 回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」実施報告書

- 【日 時】平成 28 年 11 月 19 日(土) 9:30~18:50 ※10:00~17:00 を想定
 【場 所】平塚市青少年相談室 市民センター2 階
 【出席者】青少年相談室：4 名 / NPO 法人ぜんしん：5 名
 【参加者数】16 名
 【主な活動内容】青少年相談室管轄の 3 部屋を利用し、市の相談員と団体スタッフが、以下の通り、各参加者の相談に応じた。

1) 市の相談員やぜんしんの元当事者相談員による相談

- a) 不登校で進学に悩む中学生の息子さんを持つ親御さんは、市の相談員とぜんしんの元当事者相談員との相談をし、その後、意見交換スペースにも来られた。不登校を経験し通信制高校を卒業した元当事者スタッフらの話しに熱心に聞き入り、しきりにメモを取られていた。また、学校のパンフレットを子どもの目につくところに置いておくかどうかの話では、「当事者の生の声を聞けてありがたい。カウンセラーからは出てこない貴重な意見」と話されていた。
- b) 大学を中退して実家に戻ってきた子どもに対し、どう接していいか悩んでいるご夫婦が相談に来られ、市の相談員とぜんしんの元当事者相談員は長時間に渡り相談に応じた。相談を通じ、当事者の自信がなく堂々巡りを繰り返してしまう気持ちに気づいたようだった。

2) ぜんしんの元当事者スタッフたちとの意見交換

- a) 意見交換スペースでは、ぜんしんのスタッフらと参加者数名が常に和気あいあいと歓談していた。市の相談員との相談も行った参加者の女性は、初めてけん玉で遊び、楽しげな表情になっていた。午後の時間帯は参加者の状況を窺い、ぜんしんが持ち込んだ玩具を活用した遊びを通して、各参加者の心の距離を縮めた。ゲーム大会のようにお菓子を賞品代わりにして参加者が楽しむシーンも見られた。
- b) 不登校と今後の進学に悩んでいる親子は、ぜんしんの元当事者スタッフらと相談をした後、意見交換スペースにも訪れた。不登校や通信制高校の経験を持ち、その後、大学へ進学したスタッフらは、熱心にお二人の話の聞き、様々な高校について意見を述べていた。

【振り返りのまとめ】

- 1) 参加される親子が一気に相談に訪れる時間帯があり、対応できる市の相談員とぜんしんスタッフで役割を分散される必要があった。今後、参加人数が多くなった場合を想定し、改めて、参加者の受け入れ体制を整えていく必要があることが明らかになった。
- 2) ぜんしんの当事者性をより活かし、相談内容によって臨機応変に該当する経験を持つ当事者を参加させるなど、幅広い対応をしていく。また、ゲーム・ネット依存だけでなく、通信制高校など、最新の情報も適宜、提供していく。

【問題点・今後の課題】

- 1) 開催時間(10時)よりも早く到着した参加者への対応。→9時半からスタッフが応じた。
 2) 一人あたりの相談時間が長くなり過ぎた。→相談の希望形態を最初に選ぶ形式にする。
 3) ボランティアスタッフを含めた体制で臨んだが、ぜんしんのスタッフが不足し、対応が一時、不十分になった。→市の相談員との情報伝達・連携を更に充実させる。
 4) 申込みをする際の「窓口」が不明瞭だった。→申込みを市の相談室に一本化する。

【アンケート結果】 ※集計データ詳細とコメントについては、「別紙」を参照。

アンケートのコメントに「光が見えた気がする」、「親の気持ちも楽になった」など、当事者の親の心を解きほぐすことに一定の成果を得られた。また、今回は、本事業の「毎月開催を望む声」が前回よりも多くあり、当該事業の有用性は増していると判断できる。

以上

第2回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」アンケート集計結果(数値編)

実施日:平成28年11月19日(土)

参加人数	16人
アンケート枚数	11枚

※第1回 7名

※第1回 6枚

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

インターネット	1	8%
告知パンフレット	6	46%
広報ひらつか	2	15%
知り合いからの紹介	2	15%
JR平塚駅掲示ポスター		0%
行政機関の紹介、その他	2	15%
合計	13	

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか(全てお答えください)。

市の相談員による相談	6	40%
元当事者(親)による相談	4	27%
元当事者(子)による相談	3	20%
カードゲーム等のゲームコーナー		0%
意見交換コーナー	2	13%
ミニ・パソコン講座		0%
合計	15	

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。

毎月開催	5	50%
3ヶ月に一度	1	10%
半年に一度	3	30%
1年に一度		0%
その他	1	10%
合計	10	

第2回「不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」アンケート集計結果(コメント編)

実施日:平成28年11月19日(土)

※誤字脱字の修正、不明な文字の補完をしています

項目1 本日の「相談会」の情報をどちらから知り得ましたか。

1	図書館でチラシを見て。
---	-------------

項目2 本日、利用された支援内容は、どちらになりますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	親切に色々とお話を聞いていただきました。
2	分かり易い説明で、具体的なのでとてもありがたいです。
3	丁寧に対応していただき、親の気持ちも少し楽になりました。ありがとうございます。またこれからのことをどうしたらよいかアドバイスいただき、大変参考になりました。
4	柳川さん、市の相談員さんからたくさんのヒントをいただきました。できそうな事から少しずつ試していきたいと思います。
5	和気あいあいとした雰囲気です話を聞きやすく良かったです。

項目3 このような相談会を今後、希望されますか。ご意見・ご感想をどうぞ。

1	娘だけでなく、親もまわりに公言して行けるようやってみます。また、やってみてわからない事があれば相談させてください。
2	不登校について相談できる機会は本当にありがたいです。
3	本人の体調などにより来れるかどうか当日にならなければわからないので。

項目4 全体の運営や進行などについて、何かご意見はございますか。

1	親切な対応と、十分な聞き取りありがとうございます。
2	当事者の方にお話を聞けて、光が見えた気がします。ありがとうございました。
3	和やかなムードを作ってほしい。

項目5 今後の事業について、何かご要望などありましたらご記入ください。

1	みんなで楽しめるもの。
2	色々な人とのコミュニケーションを取れる時間。同じ人だけでなく様々な人と話せる時間。(例)グループを3つぐらいに分けて人だけを変える。
3	ゲーム大会。意見交換会。
4	楽しめるイベント。アート系イベント。

平成28年度実施協働事業 決算報告書

	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由、収入内容・単価・数量等)
① 収 入	市の支出	120,000	120,000	0	
	団体の支出	1,660	2,695	1,035	団体の会計より支出
	事業収入	0	0	0	参加費は徴収しない
	収入合計	A 121,660	B 122,695	B-A 1,035	
② 支 出	謝金	69,000 (69,000)	69,000 (69,000)	0	総括責任者: 7.5H×2日×1人×1,000円、準備 5H×6日×1人×1,000円 元当事者スタッフ: 7.5H×2日×2人×800円
	事務用品費	22,620 (22,620)	23,642 (23,371)	1,022	プリンター用インク(4色): 5,030円×2、サポーターや参加者が用いる 文房具: 6,998円、軽微な玩具: 5,396円 など
	印刷製本費	7,000 (7,000)	13,214 (13,214)	6,214	告知パンフレット/A4カラー(1,000枚×2): 4,644円 大判ポスター印刷費/B1カラー(2枚×2): 8,540円、コピー代: 30円
	旅費・交通費	8,260 (8,260)	4,000 (4,000)	-4,260	元当事者スタッフ: (920円+1,300円)×1、(480円+1,300円)×1
	通信運搬費	13,120 (13,120)	10,415 (10,415)	-2,705	行政機関や他団体等へ事業告知に用いる郵便費: 第1種定形外 120円×69、第1種定形外 140円×6 ほか
	食糧費	1,660 (0)	2,424 (0)	764	参加者に提供するお茶菓子代: 1,159円+1,265円 ※団体の会計より支出
		()	()		
	支出合計	C 121,660 (120,000)	D 122,695 (120,000)	D-C 1,035	
③	収支決算額 B 122,695 円 - D 122,695 円 = _____ 0 円				【備考】

※支出額の () 内は「市の支出」の金額を記載してください。また、事業収入や国・県等からの助成金なども含め、事業に関する収支すべてを記載してください。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	特定非営利活動法人ぜんしん	<input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校やひきこもりに悩む親子を対象に団体が得意とするゲーム等を切り口とする手法を用いて元当事者親子の姉妹と市の相談員がフリースペースを設け、挫折や回復の体験談や支援機関の専門情報を提供する等し、彼らの状況改善・自立を支援する事業目的を共有することが出来た。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	当初、掲げた計画通り、団体と市による適正な役割分担のもとに事業は実施された。 だが、2回目の事業実施時に参加者が予想人数を上回ったことで、相談等に対応する団体と市のスタッフ不足やフリースペースが利用増により狭く感じる問題が生じた。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	事前の準備段階から、団体スタッフと市担当職員によるミーティングを定期的に重ね、参加者情報の共有、会場備品等を双方で入念に確認した上で事業に臨むことが出来た。更に、事業終了後に双方で振り返りの時間を十分に設け、今後の事業展開で要する改善点等の情報共有を図った。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	団体と市は、互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。 双方が抱える疑問点や生み出されたアイデアは、速やかな話し合いのもとに疑問の払拭、アイデアの採用となる等、互いが対等な立場で快く事業を展開することが出来た。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	団体が単独で事業を実施した場合は、より多くの市民へ参加を募るには限界がある。本事業では、「広報ひらつか」等で広範な周知協力を経たことで、想定以上の市民へ支援の手を差し伸べることが出来た。更に、市と協働したことにより団体の支援活動の信頼性が高まったと考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

記載団体・担当課	健康・こども部 青少年課	<input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政
事業名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業	

※評価点（5段階）の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価点 (5段階)	補足（評価点の理由や補足、成果・課題とその対応など）
①事業の「目的は共有」できましたか。	5	不登校・ひきこもりの悩みを抱えた子どもと保護者にフリースペースを市の施設内に設け、NPO法人の元当事者と市の青少年相談員が協働して、子ども達とコミュニケーションを図りながら、挫折・回復の体験談を交えたアドバイス等の提供による改善・自立支援という目的を共有した。
②事業での「役割分担」は適正でしたか。	4	役割分担は適正であったが、第2回事業では参加者が大幅に増え、行政側が用意したスペースやNPOスタッフのやり繰りに苦労した。次年度では、この点を踏まえ、待合スペースやスタッフ等の確保を措置した。
③「十分に協議」を行いましたか。 (双方の特性の理解に努めましたか。)	5	担当課職員とNPO法人スタッフによるミーティングと事前準備に多くの時間を割き、十分な準備のもと、事業に臨むことができた。又、各回事業終了後の振り返りにも十分な時間を設けて以降の計画に反映させた。
④「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5	担当課とNPO法人ときちんとした役割分担の基に、事業を実施し、事前・事後のミーティングでは双方忌憚ない意見を出し合い、フィードバックしながら事業を進めることができた。
⑤それぞれ単独で実施するよりも「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5	双方の得意分野・強みを活かすことができた。青少年相談職員の率直な意見・感想として、NPO法人の元当事者の実体験に基づくアドバイスや寄り添う言葉は現に悩みを抱える当事者の心に深く響くものであり、今後の相談スキル向上に反映できる貴重な情報となった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

B : 「相互」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、双方で話し合った内容をご記入ください。

団 体 名	特定非営利活動法人 ぜんしん	担当課名	健康・こども部 青少年課
事 業 名	不登校・ひきこもり改善・自立支援事業		

(1) 協働の「視点」

「目的共有」「役割分担」「十分な協議」「対等な立場」「相互評価や波及効果」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

事業実施に向け、事前準備や事後の振り返り等において市の担当職員と団体スタッフが多く時間を割いて、意見交換を行った。双方で「十分な協議」を重ね、「目的共有」、「役割分担」について、共通の認識を持ちながら事業に取り組むことが出来た。

市の担当職員と団体スタッフは、予定していた役割分担のもとに互いに対等で双方の立場を尊重し、良好な協力関係を維持しながら事業を実施できた。事前・事後のミーティング内容も速やかに事業に反映され、互いが「対等な立場」で快く事業を展開することが出来た。

「相互評価や波及効果」については、市と団体が互いの強みを活用できたことに加え、新たな支援メニューとして多くの市民にアピールできたこと等から「波及効果」は高いと考えている。

(2) 事業の「内容」

「目的・目標の達成」「費用対効果」「受益者サービス」についての成果・課題や、評価点が異なる場合の協議内容など。

「目的・目標の達成」については、「成果目標値と定めた参加人数16名に対し、実参加人数が23名」と大きく上回り、また、別紙アンケート回答にもあるように、参加者から肯定意見や高い評価を多く頂けたことから目的・目標は達成されたと考えている。

「費用対効果」については、計画した予算範囲内で事業を実施したが、予想を上回る人数の親子が参加したことに加え、別紙のアンケート回答にある参加者のコメントからも満足度は高いことから、費用に見合うサービスは十二分に提供できたと見ている。

「受益者サービス」については、別紙アンケートの通り、参加者の満足度が高く、本事業を「毎月、開催して欲しい」等の声もあり、受益対象者から概ね、高い評価を頂けたと判断している。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

(3) 実施したメリット

「市民・団体・市のメリット」についての協議内容や、お互いの自己評価への意見交換内容など。

「市民のメリット」については、市内にある既存の行政部門や関連する市民活動団体等で悩みの解決策を見出せない当事者親子(市民)に対して、問題改善、自立(回復)へ向けたきっかけを与えることが出来た。

「団体のメリット」としては、活動スペースの確保だけでなく、行政による広範な周知協力を得られた。また、協働事業の受託団体として信頼度が高まり、活動がしやすくなった。

「市のメリット」については、市内諸機関で解決策を得られない相談者へワンストップで、支援の手を差し伸べられ、元当事者による挫折・回復経験談等の貴重な支援情報を得られたことが挙げられる。

(4) その他、課題やその改善方法など

第2回目の事業実施時に予想人数を超えた親子が参加した為、参加者へ対応する「スタッフが不足する問題」や「参加者が相談を受けるまでの待機スペースがない(利用者が増えた場合にフリースペースが狭くなる問題)」といった新たな課題が見つかった。

その為、2年目以降の事業実施時において、団体と行政双方にて以下の対応を検討している。

a) 主として団体側課題：ボランティアを含めた人員の確保(増員を計画している)

b) 主として行政側課題：待合スペースや自由に過ごせる会場の確保

(既に「待合スペース」を新たに追加し、確保している)

(5) 今後の具体的な展開

今後も双方で実施 (提案型 提案型以外)

休止または終了

行政が単独で実施

団体が単独で実施

その他 ()

※実施事業を今後、どのように活かしたり発展させるのか、また、市民活動団体は自主財源の確保方法などを含めた具体的な事業展開の内容や、上記の選択項目の補足事項を記入。

- ・ 団体と市が共有した支援情報を各々の事業・活動に活用していく
- ・ 今後も連携を継続し、団体の定例活動等と市の相談事業の相互乗り入れを検討していく
- ・ 市は、団体の継続的活動への効果的支援を検討する
- ・ 最終目標として、当事者の就学・就労等の社会復帰・自立への支援策を協力して模索する
- ・ 団体は、自団体の支援内容を紹介する「説明会」等を開催し、当該協働事業の周知を行い、より多くの当事者親子(市民)が参加できるように呼びかけていく
- ・ 本協働事業に参加した親子が、自立に向けて更なる支援を求めた場合、団体の定例活動等へ誘い、個別相談ほかのプログラムを利用して頂くことで、財源を確保しながら支援活動を継続していく